

# イベント駆動型プログラミング論

## 第1回 イン트로ダクション

石井 健太郎

専修大学 ネットワーク情報学部

[kenta@isc.senshu-u.ac.jp](mailto:kenta@isc.senshu-u.ac.jp)

# イベント駆動型プログラミング論

## 第1回 イン트로ダクション

石井 健太郎

専修大学 ネットワーク情報学部

kenta@isc.senshu-u.ac.jp



**この講義では**

**AutoHotkey**を用いた  
イベント駆動型プログラミング  
を学びます

**内容はあとまわしにして**

# 合格の条件として

- 予習課題として指定のウェブサイトを読んてくること  
(予習を前提とした講義をする. 予習していないとたぶんだめ(理解不能))
- コーディングした製作物が意図どおりに動作することを発表で示すこと  
(結果を求める. 製作物が動かないとだめ)
- 互いの製作物に対して, さらなる改善に貢献しうる意見を出すこと  
(他者への貢献を求める. 自分の製作物ばかりかまっていたはだめ)

をすべてしないと合格としない

(そのかわり, 相応のスキルと経験が身につくはずである)

# 実際には

- 本日，予習ウェブサイトを示します
- 8月9日に，予習を前提とした講義を行います
- 8月10日に，プログラミングを行います(質問も受け付けます)
- 8月10日の終盤に，**成果発表会**を行います

# 実際には

- 本日，予習ウェブサイトを示します
- 8月9日に，予習を前提とした講義を行います
- 8月9日の夜に，可能な限りプログラミングを進める必要があります
- 8月10日に，プログラミングを行います(質問も受け付けます)
- 8月10日の終盤に，**成果発表会**を行います



つまり,  
**AutoHotkey**ハツカソ  
を行います

# AutoHotkeyとは



- キー入力・マウス入力に反応する常駐ソフトを作成できる**Windows**のツール
- 独自の言語でキーイベント・マウスイベント発生時の動作を記述する
- 一方で、イベント駆動(=イベントドリブン)・イベントハンドラのご概念はほかのソフトウェア開発に適用可能である

<https://autohotkey.com>

# AutoHotkey Wiki

- AutoHotkeyの使いかた・リファレンスの日本語訳・サンプルなどについてまとめているウェブサイト
- このサイトの赤枠内を**予習テキスト**とする(第2回までに熟読のこと)

<http://ahkwiki.net>



メインページ

最近の更新

よくある質問と回答

サンプルコード集

編集ルールと方法

井戸端

練習用ページ

サイドバー編集

▼ リファレンス

概要

イントロダクション

使用例

使用方法

ホットキー

ページ

議論

閲覧

ソースを表示

履歴表示

検索

ログイン



## AutoHotkey Wikiへようこそ

このサイトは誰でも編集できるフリー事典です。

現在、約 409 本の記事があります。

公式サイト(英語) : [AutoHotkey](#)

### AutoHotkeyとは？

AutoHotkeyはホットキーへの機能の割り当てなど常駐ソフトの作成に特化したスクリプトエンジン。多彩なコマンドが用意されており、GUIを持ったプログラムの作成も可能。

任意のキーの割り当て変更、マクロ、ウインドウ操作 ...

オープンソースの簡易プログラム言語、Windows用フリーソフト。

### 現在の最新バージョン (詳細)

- [AutoHotkey \(AutoHotkey\\_L\) Ver1.1.14.03 - 2014/02/14](#) [\(更新内容\)](#)

### 関連サイト

- [AutoHotkey 公式サイト \(英語\)](#)

### はじめましょう

プログラム言語は難しいと思われがちですがAutoHotkeyは予め用意されたコマンドを組み合わせることで比較的簡単にスクリプトを組む事が出来ます。始めにリファレンスから読んでいけば、初心者の方でも数時間ほどの学習で基本的なことは十分理解できるようになるでしょう。

- 学習の順序 (早くて2時間ほど)

1. リファレンスを全部読む。
2. どのようなコマンドがあるか確認。
3. サンプルコード、各コマンドページの例文を手本に実際に書いてみる。

### 行き詰まった場合

行き詰まった場合は以下の事を試してみましょう。

# ノートPC持ち込み推奨

- さきほども書いたように、  
**8月9日の授業終了後に作業**することを想定している
- そのため、AutoHotkeyをインストール可能な  
自身または研究室の**WindowsノートPC**を持ち込むことが望ましい
  - この場合、自宅や研究室に戻ってからも継続的に作業を行うことができる
- 演習室PCでも可能は可能、しかし若干不利
- デスクトップPC持ち込みでも私としては可(電源がとれるなら可)  
(本当に可かな.. 検討している人は部屋を確認してください)
- ちなみに、現時点で演習室PCを使用する予定の人は何人いますか？

# スケジュール

7月26日	5限	第1回「イントロダクション」
8月9日	2限	第2回「プログラミングモデル・イベント・イベントハンドラ」
	3限	第3回「キーボードイベント・マウスイベント」
	4限	第4回「AutoHotkey各論」
8月10日	1限	第5回「プログラミング実習」
	2限	第6回「プログラミング実習」
	3限	第7回「プログラミング実習」
	4限	第8回「成果発表会」
	そのあと	打ち上げ(任意参加)

# 打ち上げについて

- **成果発表会に参加した受講生にはAutoHotkeyの共通の話題があるよりフランクに互いの作品を講評してほしい(意外にいいアイデアが生まれたりする)**
  - これは本当に意味のあることである
  - 任意参加ではあるが、ぜひ参加してほしい
- **打ち上げのないハッカソンはほとんどないです**
- **詳細は現段階では未定(当日までにつめる)であるが、予定をあけておいてもらえると幸いである**

# Mac/Linuxを愛する人へ

- AutoHotkeyはWindowsのツールであり, これを用いて講義を進めるが, Mac/Linuxにも同様のツールが存在する
  - 講義終了後にそれぞれのOSにプログラムを移植することを期待する
- Keyboard Maestro (Mac)  
<http://www.keyboardmaestro.com>
- AutoKey (Linux)  
<https://github.com/autokey/autokey>

# おわりに

- 質問をビデオ通話で受け付けます
- 講義資料は  
<http://pc.fm.senshu-u.ac.jp/~kenta/lecture/index.html>  
に掲載しています(メモ推奨)